



— 第64号 —
 〒214-8565
 川崎市多摩区西生田1-1-1
 日本女子大学教育学科の会
 電話 044 (952) 6870 (代)
 FAX 044 (952) 6889
 ホームページ
<http://jwu-gakuen.net/>
 メールアドレス
info@jwu-gakuen.net

第五十三回「大会」のお知らせ

日 時 平成二十六年五月二十四日(土)
 十二時三十分～十五時三十分

会 場 日本女子大学人間社会学部
 A棟二階第一会議室
 (西生田キャンパス)

大会日程

- 第一部** 総会(十二時三十分～十三時)
- ・ 会長挨拶
 - ・ 平成二十五年事業報告および各部報告
 - ・ 平成二十五年会計決算報告・ 監事報告
 - ・ 役員改選・ 承認
 - ・ 平成二十六年事業計画・ 予算審議
 - ・ その他
- 第二部** 第十八回「学縁の集い」
 (十三時～十五時三十分)

申し込み

準備の都合上、なるべく同封のハガキで五月九日(金)までにお申し込みください。(申し込みなしでの当日参加も歓迎です。)

※卒業生の方は西生田キャンパス入構・スクールバス乗車に際して、身分確認用として、「葦」送付時の封筒をご持参ください。



「教育学科の会」 第五十三回大会」の お誘い

会長 澤本 和子

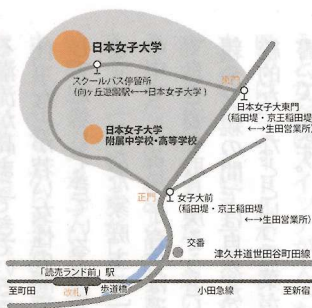
今年も、おひとりでも多くの卒業生と在校生の皆様のご参加を願い、ご案内をいたします。

大会は、「第一部「総会」と第二部「学縁の集い」で構成されています。総会は、この会の実績を会員の皆様と共有し、これからの活動方針を決定する大事な機会です。また、「第二部「学縁の集い」では、卒業生や在校生の参加を企画しています。この機会に、大会後に同期会や同じゼミのクラス会などを企画して頂くのも有難いです。奮ってご参加下さい。

詳細は、日本女子大学教育学科の会ホームページ(<http://jwu-gakuen.net/>)をご覧ください。内容の詳細が決まり次第アップいたします。

交通のご案内

- ◆小田急線 読売ランド前駅下車 徒歩 15分
 - ・ 新宿から急行 25分 (向ヶ丘遊園乗り換え)
 - ・ 新宿から準急 30分
- ◆小田急線 向ヶ丘遊園駅下車 北口3番停留所よりスクールバス (所要時間約 15分・無料)



西生田スクールバス時刻表

2013年度の土曜日用です。
 2014年度は変わる場合があります。
 ホームページでご確認ください。

時	向ヶ丘遊園駅発	日本女子大学発
8	26 36 46	
9	06 17 47	25
10	10 27 41	08 13 35
11	11 28 58	13 39
12	11 45 59	30 40 50
13	11 28 38	10 23 40
14	11	10 25 45

- 京王線
『京王稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行)約12分/
日本女子大東門または女子大前下車
- JR南武線
『稲田堤』駅下車/
小田急バス(生田営業所行)約12分/
日本女子大東門または女子大前下車

提言

ベルリンの歩道の「つまずきの石」

教育学科教授 今井 康雄

多くのヨーロッパの街がそうであるように、ベルリンの歩道も石畳が多い。その石畳を何気なく歩いていて、もしあなたが運がよければ、舗石が真鍮色に輝いているのを発見するかもしれない。身がかがめてのぞき込んでみると、舗石が金属板になっていて、そこには人名らしき文字と何年から何年までという年号が美しく刻まれている。それはナチズムの時代に強制収容所に送られて命を奪われた人の名前と生没年である。彼または彼女は、その舗石の目の前の建物に住んでいて、そこから連れ去られたのであった。彼・彼女が死に至った経緯も金属板には簡潔に彫り込まれている。

舗石を墓碑銘に変えるというこの活動は、彫刻家のグンター・デムツヒが長年取り組んでいるプロジェクトである。すでにドイツを中心に五百以上の都市に、彼が「つまずきの石(Stolpersteine)」と名づけたこうした墓碑銘が設置されてい(<http://www.stolpersteine.de>)。この活動を、デムツヒは当初ゲリラ的に何の許可も受けずにやっていた。道路を管理するお役所との間でいざこざもあったらしい。しかし今ではつまずきの石の設置は市長なども参加する一大イベントになっている。私が誘われた一昨年十一月のベルリン中心部の通りでの設置にも大勢の人が集まり地元テレビ局の取材も入っていた。そして、アメリカとイスラエルから招待された、かつての住人の孫に当たる二人の高齢の紳士が、たまた今設置されたつまずきの石の前に、彼らの祖母がどのような人であったかを弔辞のように読み上げた。

私たちは数百万人のユダヤ人、ロマ人、同性愛者などがナチスによって殺害されたという事実を知っている。膨大な数字はどこか現実離れした響きを持つ。しかし、息子夫婦がドイツを見限っても自分の故郷を去りかねていた一人のユダヤ人女性が、実際にここから着の身着のまま連行されたのである。数百万という数字の二つがどれほどの重みを持ったものであったかを、改めて思い知らされた。同時に、ドイツにおける過去の取り組みが、こうした草の根の活動によって支えられていることも思い知らされたのであった。

ホームカミングデー 講演会の報告

昨年十月十九日(土) 山下絢先生(教育学科専任講師) 岩木秀夫先生(教育学科教授)の講演会が西生田で開催されました。
山下先生の司会のもと、在学生、卒業生、教職員の方々が三十名近く参加され、女性のリーダーを増やすための様々な提言に一同熱い思いを感じました。



山下先生

岩木先生

女性のリーダーを増やすには?

～女性リーダーの再定義と新潮流～

山下先生の講演

今日は、女性のリーダーをいかにして増やすかについて考えてみたいと思います。

Harvard Business Review 〇二〇一三年九月号に「Woman In Leadership」という女性のリーダーシップを考える特集がくまれています。そこでは女性が活躍していくためにどのような障壁があるのかが議論されていました。今までいろいろな分野で女性の就業について議論されてきましたが、就業後にどのように活躍あるいは躍進していくのか

という議論が、実証データに基づいて展開されているのが新しい傾向といえると思います。また、ゴールドマン・サックス証券会社の金融部門のレポートでは、Womonomics(ウーマノミクス)という概念が提示され、女性の活力をもっと活用することが経済を活性化すること指摘されています。また、

米国ビジネス雑誌「Forbes」では、毎年世界に影響を与えた女性百人が発表されます。今年度の一位は、ドイツのメルケル首相でした。今日は、このランキングに登場しているシエリル・サンドバークさんの主張をご紹介します。

シエリル・サンドバークさんはFacebookのCOO(最高執行責任者)です。彼女の三つのメッセージを紹介しましょう。第一は「Sit at the table」です。交渉の舞台に立たないと社会を変えることができないということ。女性のほうが自分の能力を低く見積もる傾向にあるという統計データを示していますが、私は初めて知りました。どうせ社会は変わらないのだから投票に行かないという若者達にも該当するメッセージではないでしょうか。第二は「Make a partner, real partner」です。これは最近ワーカーライフバランスとしても議論されています。

これは女性目線からのメッセージです。例えば男性はもつと家事にかかりなさいといったメッセージであると思います。そして第三の「Don't leave before you leave」です。例えば子育てや介護を抱えて自分の仕事ができなくなる日までそういつたことを心配せずに、とにかく全力で尻込みをしないでアクセルを踏み続けることが大事であると言っています。

もちろんこれらのメッセージに対して批判もあります。シエリル・サンドバークさん

のメッセージは女性ばかりでなく、男性にとつても若者にとつても響くイメージとして示唆に富んでいるのではないのでしょうか。

岩木先生の講演

エミリー・マッチャーの著書「アメリカ女性の家庭回帰潮流」によると、アメリカではごく最近、中・上流階層の高学歴女性の間で家庭回帰、DIY、手作り家事に戻る潮流が高まってきたようです。縫い物仕事などが若い女性の間でかっこいい作業として定着してきているという話書かれています。「新たな家庭主義」というタイトルの中で、今日の子育ては過去にあった単純で良き姿を取り戻そうとしており、若い母親や父親の間では自然な、本能的な、伝統的な、などという言葉が飛び交っていると書いています。

しかしエミリー・マッチャーはこの新たな家庭主義は、フェミニズムのこれまでの成果を台無しにするものであるとしています。彼女が新たな家庭主義の根底にある手作り主義を批判する最大の理由は、それが結局は自己責任主義に陥つて、諸問題の公共的な解決への関心をふさいでしまうという点にあります。

しかし、マッチャーのこの視点には矛盾があります。フェミニズムとはサンドバークの話にもあるように女性が男性に負けずに企業や官公庁で出世することを目指した思想です。マッチャーは新たな家庭主義がフェミニズムのその成果を台無しにするという懸念を述べながら、その一方で、新たな家庭主義の根底には環境問題、食品汚染問題、医療・公教育への不信、企業の非人間的な労働環境への批判などがあることを鋭く指摘しています。もしフェミニズムが大事に踏襲すべき

ものであるなら、女性がキャリア追求に精を出して企業の経営幹部や政府の幹部官僚に女性がもつと増えれば、環境問題や食品の汚染問題、医療、公教育の不信がぬぐい去られて企業の職場がもつと人間的になり、一人ひとりの仕事もつと達成感に満ちたものになるはず。しかしこの本にはその根拠が述べられていないのが残念です。

話を日本に戻しましょう。日本でも女性がキャリアを追及すると、諸問題の公共的解決につながるのでしょうか。ここに「TPPの黒幕、女性官僚また暗躍」という記事があります。TPPの反対派を切り崩すために大活躍している経済産業省の女性キャリア官僚の記事で、この女性はフェミニストの観点からすると輝くエリート女性ということになります。が、省益のためだけに無二働く彼女の実存は醜いという印象があります。

がっかりしていたら、美しい事例がありました。香川で生まれ育ち、東京の大学で在学中に農作業ボランティアに参加したことをきっかけに、新潟の限界集落に移住して農業や地域作りに活躍する「移住女子」。志摩で高齢の海女達に混じって週末海女を続ける大学四年生の「海女ちゃん」。荒廃する日本の森林を救おうと京都、長崎、岐阜、静岡と広がっていた「林業女子会」。こういった事例は、日本でも若い女性の間で自然回帰、DIYが広まりつつあることを示しています。

高度成長期以降、農山漁村から人がいなくなつて国土が荒れるという現象が発生していますが、若い女性たちが田舎に移つていろいろな活動をするこことよつて、都市から地方への人口の逆流を作り出すことができるのではないのでしょうか。

渡邊正裕は著書「十年後に食べる仕事、食えない仕事」の中で、グローバル化によって、雇用労働市場の七割が打撃を被るのが必至であると述べています。「一生懸命勉強しても、目指す良い仕事が消滅するということとです。良い仕事の基盤になるような部分をもう一度作り直すことを今から考え直すことこそ公共政策の重要な課題ではないでしょうか。先ほどの事例のような女性の動きによって地方の山村や漁村の人口が増えることは、その第一歩です。」

女性のリーダーとして先ほどのようなフェミニストが目指してきた方向があるのも確かなことですが、もう一つの新しい方向として我々の社会の作り替えを考えたとときに、この若い女性たちの動きを新しいエリートの方であると考える必要はないでしょうか。

講演の後、女性の生き方をめぐる質問や意見交換がなされました。これから女性たちが自信を持って能力を発揮し、自立した道を歩んでいくことを願いたいと思います。【文化部24回生 赤塚国子】

懇話会の報告

二〇一三年十一月三十日(土) 目白キャンパスに、福島県相馬郡新地町にあった明治創業の老舗旅館朝日館の女将、村上美保子さんをお迎えして懇話会を行いました。パソコンとプロジェクト担当のご主人との息もびったりで、辛い体験を明るく優しく語られる村上さんのお人柄と、お話に引き込まれ、あつたう間の二時間で、三十五名が参加され、会の終了後はOKB(小川仮設住宅はあちやんす)のみなさんの作られた「うたわし」などの作品を手に取り、買い求められる方が続出し、被災者の方への温かい思いを感じました。一部抜粋してお伝えします。



今、福島に生きて 朝日館女将が語る、 震災・津波・そして紙芝居

◆ 震災 ◆

私たちは明治の初めぐらいにできた小さな、でも歴史のある旅館をやっていました。その旅館は海岸から直線距離で二百メートル足らずのところにありました。二〇一二年三月十一日、パソコンでの予約の確認をしていた時、大きな地震が来ました。経験した宮城県沖地震よりひどい揺れでした。主人と私の目の前で道路が大きな音を立ててひびがけ、バクッと割れました。台所は惨憺たる有様で、お客様の食器は全部床に散乱していました。二度目の揺れはさきより大きな揺れで、立つていられなくて、這って中庭に出たら、木がわつさわつと揺れて、今にも倒れてきそうでした。中のほうが安全だと思い、入りましたが、廊下のつなぎ目の段差の間から、泥の泡が溢れてきて、液状化の臭いにおいがしました。実際は五分足らずの揺れだったのにその時は十五分ぐらいに感じ、死ぬのではないかと思つたほどでした。その瞬間私は、「あつ、津波が来る。」と思いました。後で考えてみると、小学校時代を過ごした岩手県の南三陸海岸で先生に津波の恐ろしさを何回も教えていただいたいたからかなと思います。

◆ 津波 ◆

「津波は来ない」と言い張る主人に無理やり車の運転を頼み、出発しました。余震の中、外ではみんながぼおつと立っています。散髪中の白いカバーを付けたお客さんや、はさみを握つたままの床屋さん、屋根瓦が落ちてくるのに下で片付けているおじいさん



村上美保子さんとご主人

などがいました。私はみんなに「津波が来るよ、避難するよ。」と、窓を開けて呼びかけながら行きました。道路は割れていたり、段差があつたりで時速二〇、二〇キロぐらいのスピードしか出せません。途中コンビニに寄つて、床に落ちたお握りを全部買いました。もし津波が来ず、今夜宿にお客さんが来たら食べさせようと女将のスイッチが入つたのです。「岩手県では三メートルから六メートルの津波が来ている」というニュースが聞こえたので、高台を目指しました。着いた時白い煙が見えました。風かなと思つました。「津波が来るぞー」という声が出て、みんなもつと高い消防署の方へ走つていきます。私たちも走りました。そこから見たのは、波というよりは真つ黒い水の壁でした。それが押し寄せて家にはぶつかり、家は水没し、おもちゃのようにくしゃくしゃになりバラバラのがれきになつて流れていきます。ワゴン車が流れてきて、運転手さんの顔も見えました。私はそれらの光景を恐怖感がなくただぼおつと見ていました。現実なのか映画なのかCGなのか区別がつかみません。「役場まで津波が来たー」という声に坂道を降りたら、ものすごい量のがれきが流れてきました。「ああ現実なんだ」

と思つた瞬間、へなへなど足腰が立たなくなつてしまいました。主人に助けられて車に戻り、避難所の役場に向かいました。役場の三階の避難所はたくさんの方で込み合つていてようやく小さな場所を確保することができました。みんな黙つて下を向いています。安否を尋ねる人がひっきりなしに来ていました。

ずつとながらなかつた携帯が奇跡的につながり、息子の泣き声が聞こえてきました。息子と避難所で再会した時は人目もはばからず、三人でおいおい泣きました。今までの人生で一番嬉しかつた瞬間でした。二人で一個の乾パンが配られましたが、足りなくなりました。私は途中で買つたお握りを思い出し、部屋の人たちに配りました。お握りの数はその部屋の人数と同じ数でした。奇跡のようです。私たちは亡き両親やいろいろな人に守られているのだなと感じました。

◆ 避難所での生活 ◆

農村環境改善センターでの避難生活が始まりました。広さはこの教室の三つ分ぐらいですが、一八〇人が生活をしました。衝突もない雑魚寝のような生活で、プライバシーもなく、特に若い女性の方はどんなに辛かつただろうと思います。また、苦情を言う人もいたので、小さいお子さんや障害のあるお子さんを持った家族の方は肩身の狭い思いをしていました。でも、ある人が「人間には我慢できる人とかできない人がいて、我慢できない人に我慢しなさいというのは無理。だから我慢できる人が我慢するしかないんだよ。こういう状態だからみんな仲良く手を取り合つていこう。」と言ひ、「そうだよね。」ということになりました。このように温かい雰囲気運営していた避難所生活で

したから、もし仮設住宅ができて、みんなと一緒に同じ仮設で生活したいと嘆願書を出したほどでした。

◆ 仮設住宅での生活と活動 ◆

二か月近く避難所にいましたが、新地町の小川公園仮設住宅に入りました。二〇一〇戸の住宅です。避難所と同じようにみんな仲良く生活していますが、仮設での生活もなかなか厳しいです。隣家の会話が筒抜けですし、歩くと床がミシミシいうので、毎夜声の大きな主人に「静かに」と言わなければなりません。大人三人で四畳半二部屋ですが、押し入れ以外に収納場所がなく、家具や机こたつなどを置くと、私たちの部屋は二畳ぐらいいしかスペースがありません。避難所ほどではありませんが、プライベートもあまりなく、今日私たちが女子大に来ているのはみんな知っていますし、朝寝坊しているところも起されることもあります。でも、お総菜が届いたり、雨の日は洗濯物を取り込んでくれたりということもあります。

仮設の子どもたちに、洋服、お菓子、ゲーム、おもちゃなどたくさんのお物が届きました。そんな中で子どもたちは、物を大事にしなくなり、もらっても喜ばなくなりました。何とかしなくてはと思い、若いボランティアの方たちと相談し、「何か物を作つて売らせたら。」ということになりました。土曜日の一時から二時までの三時間仮設の通りに店を開きます。子どもたちがお金を作り銀行を開き、一タウン＝一円のお金で買い物を楽しんでもらいます。子どもたちが計画、準備したコーヒESHOPP、お好み焼屋、アクセサリーSHOPP、美術館、コンサート、紙芝居あり・・・の楽しいお店です。最後(二〇

回目)のマイタウンマーケットを二〇一四年四月五日に予定しています。

夏には外で井戸端会議をしていたおばあちゃんたちが冬になると外に出てこなくなりました。孤独死などという言葉が注目を集めている頃でしたので、おばあちゃんたちを外に出すにはどうしたらよいかと考えていました。そうしたら、エコたわしを編みませんかというお話がきて、毛糸や編み棒などが送られてきました。でも参加者が三人しかいません。そこで「エコたわしを編んで売つて日帰り温泉に行こう!」というチラシを作つてみんなに配つたら、十六人集まりました。足りない毛糸はブログなどで呼びかけたら、日本だけでなく海外からもたくさん届きました。明るい色の毛糸で編みたいというおばあちゃんたちの声に、今度は「エコたわしを買ってください」とブログでお願いしたら、たくさんの方が買ってくれました。そのお金で自分たちで毛糸を買ひ、編んでいきます。今は毎週一回集まって編み、そのあとお茶会をしています。女子会やいたいたい支援物資でビンゴ大会をして楽しむこともあります。物づくりプロジェクトから講師の方がいらして、教えてくださったのでOKKBではエコたわし以外の手芸品も作つています。



OKB(小川仮設住宅おばあちゃんず)の活動の様子

スクリーンに映っている、マイタウンマーケットの子どもたちや、OKBのおばあちゃんたち。そして「これだけはみなさんに伝えなければ」という村上さんの熱のこもったお話に私たちが勇気と、元気をいただきました。

このあと、今村上さんたちが進めていらっしゃる「東北お遍路(心の道)プロジェクト」のお話があり、そして最後に紙芝居を語ってくださいました。村上さんが仮設の漁師さんに聞いた話をもとに作った物語「フィクションだが事実に近いもの」をかつて放射能で苦しめられた広島の方が紙芝居にしてくださいました。

紙芝居「命のつぎに大事なもの」

「いつか、時間がたてばすべてを忘れるからと、人は慰めてくれる。ほだども、俺は忘れねえ。命のつぎに大切なものを、俺は間違った忘れてしまいたいげんご、忘れねえ。忘れてはなんねえと思つているんだ」東日本大震災、あの日、福島。村上さんの語りとともに、釣師浜の漁師さんたちの心の叫びを忘れないようにしようと思ひました。

アンケートより

生の体験談を伺うのは初めてで、とても心に深くしみ入りました。お話の一つ一つが心に響き、悲しい体験があるからこそ、今のお姿につながっていることなど素晴らしい感動でいっぱいです。どうぞ学校でのお話が益々広まりますように。いつか東北巡礼地もぜひ訪れたいと思います。

【文化部24回生 赤塚 国子】

会員の広場

今回は、千葉で福祉施設に携わつてこられた中村和子さんと、横浜で個別学習塾を立ち上げられた日野昌子さんに原稿をお願いしました。卒業後出版社に入社されたのち、様々な経験を経て今の活動に至られた中村さんと、昨年29年間の教員生活から新たな一歩を踏み出された日野さんです。

重症児・者とともに

* * 千葉から * *

13回生 中村 和子

わたくしが現在その活動に参加している施設は、指定障害福祉サービス事業所「さいわい」といいます。重い障害のあるひとたちのための通所施設として、二〇〇五年四月千葉市美浜区稲毛海岸に設立されました。



食事の介助をする中村さん

運営主体は「社会福祉法人千葉重症児・者を守る会」で、事業内容は現在「生活介護/児童発達支援/放課後等デイサービス/短期入所」です。定員は生活介護25名、短期入所2名、児童発達支援・放課後等デイサービス5名となっております。

「どんなに障害が重くても地域の中で生き」を合言葉に親の願いから立ち上げた施設ですが、それまでの9年間の「ワークホーム」時代がありました。民家をお借りして



施設長の江本素子さん

手作り施設の活動をしながら法人化をめざしておりました。6名、12名くらいの通所者の介護をした

がら、バザー、フリーマーケット、福祉ショップなどで、寄付をしていただいた品や手作りの品を販売して自己資金を積み立てて設立の準備を進めました。

わたくしはワークホームができた時に、現施設長の目指すところと誘いの言葉に共鳴し活動に参加することになったのです。彼女はそこから親として活動の中心になりましたが、その数年前からカルチャースクールで共にフランス語会話を学ぶ間柄でした。やがて、わたくしたちの9年間の活動が千葉市によって認められ、法人化が実現し、土地の無償貸与、建物建築費用の補助もしていただけることになりました。この時の喜びはわたくしたちの心の中に深く残るものとなっております。

現在の施設では、午前は全体活動(散歩、季節を感じる作品作り、行事が近づくとその準備など)、午後は個別活動(リハビリ、クラブ活動など)、その間に入浴サービスを受ける人もいます。昼食は半数くらいが経管栄養(中には日常的に吸引の必要な人がいます)、そして普通食、きざみ食、ペーストと分かれております。年間行事としては運動会、夏祭り、個別外出、全体外出、クリスマス



今年の成人式の様子

マス会が大きなものですが、ほかに数々行われます。わたくしは今ではボランティアですので吸引などの医療行為はせず、職員の仕事がスムーズに進むようにと補助的

な仕事をしたり、後援会の会長として寄付をお願いしたり、「じゃがいもたまねぎセット」の販売をしたり、公園清掃に参加したりしております。これらは現施設の運営費の補助(公的支援だけでは足りませんので)にもなりませんし、次なる目標のグループホームの設立の自己資金にもあてるものです。さらに施設長とともに広報の発行をしております。しかし、なんと申ししてもお母さん方の日々の頑張りにはいつも感動させられ、エールを送り続けたいものがあります。

私たちの教え方で

学べない子には・・・

34 回生 日野 昌子



昨年夏横浜市で学習塾を立ち上げました。塾の名前は「びすぱく」。

英語で Bespoke。テーラーが客の好みや体型、服の用途を確かめ、オーダーメイド

で作る、という意味です。私の塾でもお子さんのニーズを聞いて、状態をみとりながら学習内容や方法を考えていきます。対象は5歳から12歳。教科書を読むとき行がずれてしまつ、漢字がなかなか覚えられない、計算は得意だけど文章題は苦手、テストではよい点が取れるが友達とよく行き違つてしまつ、手先の訓練をしたい、などいろいろなニーズをもつたお子さんがいらしています。教材は市販のもの他に、お子さんに合わせて作ったものもあり、お子さんごとに違います。指導は原則マンツーマンですが、今

後小集団でのソーシャルスキルトレーニングも行つていきたいと考えています。保護者の教育相談や、会場をお借りして保護者向け学習会も始めました。教育学科では、教員免許をとる準備とともに桜楓会でカウンセリングを学んでいました。

卒論は、療育センターに通い、自閉症について書きました。卒業後すぐ横浜市の公立小学校で教員となり、ずっと学級担任をもつていました。何度練習しても漢字を覚えにくい子、とても学力が高いのに友達とうまくかかわれない子、いろいろな子ども達と出会つてきましたが、なぜだかは分からないうちにいました。あるきっかけで日本LD学会に参加し、LDということばを知り、深く勉強する必要を感じて学習会に参加するようになりました。そこで「特別支援教育士」という資格をとりました。同時に教室でいろいろなニーズをもつお子さん達にどんな支援をしたらよいか、試行錯誤しながら実践してきました。その子に合った教材を探しに本屋を何件も歩いたこともあります。特別支援教育コーディネーターをしていたときある保護者から「うちの子はテストはでき

るのですが、放課後困つた行動をとつてしまふのです。生活を教えてくれる塾はありますか。」と相談を受けました。今から8年前です。そのころはあまり情報がなく、ずつとこの言葉が心にひつかつていました。「学校だけでなく、放課後も保護者が悩んでいることがある」。保護者が大変悩まれていたので、なんとかならないかと思つていました。(今ではたくさんあります)

転勤し、個別支援学級の担任になりました。そこで、個別にその子に合わせた教材を用意し、授業の流れを子どもにカードで示したところ、自分から見通しをもつて意欲的に学習できることがわかり、「これだ!」とつかんだものがありました。気持ちを表す「温度計」も落ち着きつけに役立ちました。もつと



支援者向け学習会の様子

多くの教育的ニーズをもつた子ども達に出会いたい、という思いで塾を立ち上げました。

「特別支援」というと「通常」と「支援の必要な子」との間に一本線があるような感じがします。しかし、実際にはそうではなく、どの子も特徴があり、状態も「連続」したものであるというのが最近の実感です。LD理事長で会長の上野一彦先生からお聞きした、「私たちの教え方で学べない子には、その子の学び方で教えない」という言葉は、今の私にとって本当に大切にしたい言葉です。「その子に合った学び方」を探るべく、日々努力しているところです。
<http://bespoke-juku.com/>

先輩にインタビュー



今回は、平成24年3月に卒業されました62回生「岩木ゼミ」の同窓会にお邪魔させて頂き、高橋あゆみさん、高橋さゆみさん、中村友香さん、松村奈都子さん、宮本理代さんの5名の先輩方と岩木秀夫先生にお話を伺いました。(以下敬称略)



岩木先生 東條(奥)
松村さん 高橋あゆみさん
宮本さん 中村さん 高橋さゆみさん

★現在の職業を教えてください。

宮本…千葉県の地方銀行にて、窓口などの内勤業務を行っています。セールスに行くこともたまにあります。

松村…埼玉県内の公立の小学校にて6年生の担任をしています。

高橋さ…保育園の運営会社にて企画職に就いています。新規保育園の立ち上げや、既存園の事務処理を行っています。

高橋あ…NTTコミュニケーションズ(株)のカスタマーサービス部門にて働いており、主にOCN等の通信を扱い、業務内容は、保守・運用を行っています。

中村…ダイキン工業に勤務し、コンタクトセンターに所属しています。1年目は、エアコンの修理の受付窓口・コールセンター

での仕事が主でしたが、2年目は、電話の応対だけではなく、間接業務に携わり、全国にあるサービスステーションと連携を取るための橋渡し役をしています。そのため、東北などへ出張もしています。

★大学生生活はいかがでしたか？

宮本…大学に入るまでは、漠然と先生になりたいと思っていましたが、専門的な授業が始まると、周りの「教師になりたい！」という人達との温度差を感じ、先生になるのをやめることになりました。将来の方向転換を早く行ったことで、いろいろな人との出会いを大切にしているかと常に意識した点が良かったと思います。サークルは海外旅行のサークルに入っていました。海外旅行をして世界を知ることだけでなく、日本全国の学生・社会人と交流をすることで、たくさん刺激を受けることができました。

松村…ずっと先生になりたいと思っていましたが、幼小の免許取得を目指して勉強に励んでいました。大学に入ったら何か始めたかと考えていたので、それまでスポーツを

続けてきたわけではないのに、ラクロス部に入ることにしました。岩木ゼミに入ったきっかけは、先生になりたいけれど、先生のことだけでなく、社会学など他のことも学びたいと思ったからです。

東條…学校ボランティアなどもやっていましたか？

松村…3年生から、川崎市内の小学校で週1回学校ボランティアをしていました。他にも、埼玉県内の母校で教育実習をさせて頂いた後、そのままボランティアしていました。

東條…ラクロスとの両立は大変ですよ？松村…だいたい週5で部活があつて、部活のあとに授業に行つて、部活のない日にボランティアに行っていましたね。

高橋さ…大学に入った当初から、あまり先生になろうとは思っていませんでした。でも先生になる可能性を残すために、高校の免許取得に必要な授業は取っていました。結局、高校の免許は取らなかつたのですが、副専攻をとりました。アルバイトは塾の受付と、幼稚園生が通う英会話スクールの補助をやっていました。一般企業への就職を希望していましたが、企業目線から教育にどのようアプローチしているのかというところを知るために、就活は教育関連の企業を中心に行いました。今の会社に決めたのは、働く女性や働く女性の子どもをフォローしたいという思いがあったからです。

高橋あ…とにかく、学生中にしか出来ない経験をすることを心がけて、女性の働きやすい社会を目指す学生団体の2期生として積極的に活動しました。その団体では、実に様々な方々に会うことが出来、また他にも意識的に人に出会う機会をつ

くりました。特に印象に残っている女性は、文科省で働く方や日本ヒューレット・パッド(株)で働く方です。今でも親交は続き、本当にありがたい貴重な経験をさせて頂きました。日本を企業から変える、企業目線で考えたいということを学びました。自分次第で、何でも出来るのが学生生活の特権だと実感しました。

中村…アルバイトは休日がデイズ・インターンで、平日は塾講師をしていました。小中の免許取得を目指していましたが、やっぱり先生じゃなくてもいいかなとかなり迷いながら、やりたいことをやるということを中心掛けて学生生活を送っていました。教育実習に行ったら、先生になりたいという思いが強くなったのですが、今、先生にならなくても、就職してからやっぱり先生になろうと思つた時にもう一度頑張ることができると思い、一般企業に就職することにしました。サークルは、ダンスサークルに入っていました。実は今日もこれから練習しに行くところです。

★大学時代にやっておくといいいことはありますか。

中村…英語を習っていたのに、なかなか身につかなかつたのですが、英語の先生から英語しか使えないところに行くことを薦められて、3年生の夏休みに1か月アメリカに行つたことで、自分の世界が広がりました。社会人になると、まとまった休みが取れないので、学生時代に自分に投資しておいた方がいいと思います。

松村…部活が4年生の11月まであったので、気持ちちはあつてもほかのことになかなか挑戦できなかったのですが、4年間熱中

して一つのことをやり遂げた達成感もあるし、また全てを分かり合える仲間ができて良かったです。だから、学生の間にか熱中できることを見つけて欲しいと思います。

高橋さ…私も海外旅行は学生時代に行っておくべきだと思います。ロサンゼルス・ハワイ・上海・ヨーロッパに行きましたが、海外に行くこと日本の良さにも気付けるし、視野が広がって本当に良い経験でした。

高橋あ…様々な人に出会い、広い視野を手に入れると良いと思います。学生同士はもちろんのこと、学生という立場を利用して企業の方々とも自由に交流できたりと、フラットに付き合うことが出来るチャンスです。社会人になると、企業間の付き合いの方が多くなり、名刺ありきの自分になっているような感覚があります。学生時代に出会った方々は、ありのままの付き合いができ、今でも大切な仲間です。学生時代に沢山の縁を見つけてくださればと思います。とにかく出会いを大切にして欲しいですね。

★将来の夢や目標を教えてください。

松村…1年目は一日一日が精一杯でしたが、2年目になったので、学校という組織の一員として頑張っていきたいです。先輩にも保護者にも恵まれて、周りの方々が皆応援して下さいるので、それを子どもたちに戻していきたいです。与えてもらう存在から、与えられる存在になりたいですね。中村…今担当している仕事は先輩と二人でチームを組んでいるのですが、その先輩がとても仕事ができる方なんです。だから早く先輩みたいに仕事できるようにになりたいです。将来の目標はまだ決まっています。

ん。メーカーは各部門に分かれて仕事することが多く、他部署との交流がほとんどないので、よりよい商品を作る上でも、部門間で連携し、お客様の意見を取り入れていきたいと考えています。若手なので、新しいことをどんどんやっていきたいです。20代のうちに子どもを産みたいし、仕事を続けていくかも迷っていますが、どちらにしてもとにかく充実した日々を送ってきたいです。

高橋さ…目標を一言でいうと、「貫録をつけたい」です。若い会社なので、3、4年働けばもう中堅社員の扱いの会社です。本部の意向を現場に伝えるという仕事柄、50代の園長先生にでも、はつきりものを言わなければいけないことがあります。2年目としてこれから中堅社員になりつつあるので、現場の方からの反発も受け止められるような、貫録のある人間になりたいです。高橋あ…ずっと目標として掲げているのは、「海外の貧しい子供達を助けたい」ということです。現在、勤めている会社で国際通信技術を活かすことで叶えるのか、または所有している資格を活かし、先生として叶えるのか、などアプローチ方法は、まだ具体的ではありませんが、自分の軸をぶらさず、少しずつでも目標に近づいていきたいです。まだまだ社会人として未熟者で、職場でも沢山の方々に迷惑をおかけしておりますが、先輩に「無駄な仕事は一つもない。全て楽しみながら行いなさい」とアドバイスを頂き、そのありがたいお言葉を胸に、日々邁進しております。

東條…ちなみに岩木先生の将来の夢はなんですか？
岩木先生…百姓になりたいですね。百姓になりたいって言うって、「なれるわけがないよ」っていつも家内に怒られるんです。定年帰農に憧れる人達のお決まりのパターンです。
中村…土を触るってすごいヒーリング効果があるって言いますよね。子どもたちに土を触らせると落ち着くって聞きました。
岩木先生…田舎の小学校の同窓会に行くからね、百姓を継いでいる奴がいるんですよ。そいつは、みんなで話が盛り上がっている時に、それに我関せず一人でマイタケ(きのこと)狩りの話に熱中してるんですよ。羨ましいなって思いますよね。自給自足して、「世の中どうひっくり返しても俺は食っていける、怖いものは何もねえ」という感じで、格好いいなとも思うし。生きる意味があるっていうか。

★最後にメッセージをお願いします。

中村…感謝をするということをお忘れしないで欲しいですね。今の仕事に就けたこと、たくさん就活生の中から自分を選んでくれたこと、お客様に理不尽なことで怒られること、先輩に怒ってもらったこと。すべてのことに感謝しています。この年になると人に怒ってもらったことが少なくなりますが、お客様に怒ってもらったことで、次のお客様にしっかりとした対応ができた時、あのお客様に怒ってもらってよかったなと思えます。常に「感謝する」ということを忘れないで頑張ってもらいたいです。

松村…私もいろいろなことにありがとうと思っています。先輩に、「人を変えるのは難しい。でも自分は変わる。自分の見方を変えれば、世界は変わる」と言われたことが印象に残っています。当たり前のことなんてなくて、すべてのごことにありがとうと思わなければならないと常に忘れずに生活するようにしています。

高橋あ…私は「諦めなければ夢は叶う」ということを強くお伝えしたいです。アンパンマンの作者のやなせたかしさんがアニメ中に書いた台詞の「今日は駄目でも、次は絶対叶う」という言葉がとても印象的であり、共感できます。社会人になると、学生よりもよりリアルに夢を考えるようになります。夢を叶えるのは自分次第ということに痛感させられます。自分の人生、どのようにするかは自分次第です。夢に向かって頑張っていれば、いつか夢は叶います。みなさんも夢をお持ちの方は、諦めずに、そしてこれから夢を探す方は、どうかワクワクするような夢を探してみてください。応援しております。頑張ってください。

高橋さ…私は、今ある時間を最大限に活用してほしいということ、広い視野をもついろいろなところを見てほしいということをお伝えしたいです。時間を最大限に活用するというのは、動き回るということではなくて、時には「ぼー」とすることも大切です。また、いろいろな所で、いろいろな人に出会って欲しいなということ。また、社会人になると一つの組織に所属して、目の前のことに没頭するということが多くなります。だからこそ、学生のうちに、組織にとらわれることなく、いろいろな所に行ってほしいです。

東條…こんなに自由に動き回れるのも学生のうちだけなので、いろいろなことに挑戦して頑張っていこうと思います。今日は同窓会に参加させて頂き、貴重なお話をありがとうございました。

《ページからのつづき》

感想

学生委員代表 2年東條 葵

岩木ゼミ卒62回生の方々、とても仲が良く、四半期に一度のペースで会い、岩木先生のお宅にてホームパーティーをされることもあるそうです。楽しいやりとりが繰り広げられていたのですが、紙面の都合上、割愛しなければならなかったのが残念です。私は2年生として、教職の専門科目に追われ、将来先生になるのか、果たして私が先生として務まるのか、また、社会人として先輩方のように活躍できるのかなど不安に思うことも多いです。しかし、目標に向かって頑張っている先輩方は、とても生き生きとしていらっしゃいました。将来に迷うことがあっても、今回先輩方から頂いた言葉を思い出し、前に突き進んでいこうと思います。

後日、岩木先生から、"とても凄いい中だったんだ"ということ、改めて認識することができました。今回のインタビューがなかったら、永遠にこういうことはなかったと思います。本当にありがとうございました。(原文まま)"とメールを頂きました。岩木先生のやさしく、温かいお人柄があつてこそ、自由で活発な先輩方なのだなと思ひ、改めて素敵な先生だなと思ひました。このようなお話を聞かせてくださった、岩木先生、岩木ゼミの62回生の方々、本当にありがとうございました。末筆ではございますが、岩木先生を紹介してくださった山下先生、同窓会に招いてくださった岩木先生と高橋あゆみさんに深く御礼申し上げます。



ハガキコーナー

元気に過ごしております。

11回生 廣瀬純(千葉県)

◆十月上旬にドイツから若い知人が来日し、東京の観光地を案内したのですが、外国語以前に江戸から明治への歴史についてや、その他、日本語で正しく説明できない自分に反省させられました。

22回生 橋本晴子(東京都)

◆教育学科の会奨励賞を受賞された4名の方の真摯な文に心打たれるものがありました。

奨励賞があることによりますます教育学科の研究の向上が計られることを願っております。

25回生 浦野敬子(埼玉県)

◆ヤマハで35年ピアノ、エレクトーンを教えます。今年、小学生から教えている生徒が、日本女子大に入学しました。わが子のこのようにうれしいです。

28回生 笠井幹(東京都)

◆筆を読みながら、学生と卒業生、教員とが融合した活動をしている姿を拝見できて嬉しく思います。

元教員 佐島群巳

編集後記

■今回は、学生委員が岩木先生のゼミ同窓会に参加させていたいただき、貴重なお話を伺えたよかったです。こうした学年を越えたつながりは、教育学科の会としてうれしいことです。

石井美奈子(38回生)

■今号はハプニング連続でハラハラどきどきいい刺激になりました(笑)

星野ひろみ(37回生)

■先日初めてヘルシンキに行きました。フィンランドの人達のみならず、女性がいたる所で普通に活躍していました。PISAの結果だけではない、本当にいい国!!でも20%前後の税金はやっぱり大変でした。

大熊智恵美(34回生)

■編集委員も長く続ければいろいろあります。身体はガタがきて病気にはなるし、愛用のパソコンは添付ファイルが開かないと思ってるうちに、うんともすんとも言わなくなつてダウン…。チームワークで今回は何とか乗り越えましたが前途多難です。

高橋藤枝(23回生)



クロスワードパズル

太線枠の文字を組み合わせてできる3文字の言葉は?(漢字2文字)

ヒント!

子どもも大人もみんな大好き!?

<ヨコのカギ>

1. 成瀬記念講堂は文京区指定の〇〇〇。
4. 1961年、人類初の宇宙飛行に成功した人といえば。
6. イタリア語でディエチ、フランス語でディス、英語で〇〇。
7. 口角が上がリ、口先をやや突き出したような形状の人間の口の特徴を表す言葉。

<タテのカギ>

1. 首都はソフィア。ヨーグルトが有名な国といえば。
2. 管状の医療器具のこと。
3. ある事についてもっている考え。
5. ピンキー〇〇〇、エタニティ〇〇〇、ペア〇〇〇に共通するのは?

◆解答を同封のハガキに書いて送ってください
正解者10名に図書カードを贈呈します。
(正解者多数の場合は抽選)

◆前号の正解は<ライト>でした
たくさんのご応募ありがとうございました。

【当選者発表】(敬称略)

- | | | |
|----------|----------|-----------|
| 手島史子(12) | 清水範子(18) | 北村博子(20) |
| 高橋正子(24) | 杉山京子(27) | 松尾里羽子(31) |
| 蜂谷まみ(32) | 青山朋子(38) | 越川香織(44) |
| 後藤倫子(55) | | |



締め切り
5月9日(金)
必着